

## 1 2021 年度 事業実績と評価

下記 3 点を取組の重点として学校運営に取り組んだ。

- (1) 学生確保 充足率の向上
- (2) 適切な教育課程の編成と実施
- (3) 信頼される学校づくり

各重点に評価項目と評価基準を設定し、期末評価を行った。以下に示す。

## 期末評価

	評価項目	評価基準	期末評価
(1)	学生確保 充足率の向上		
	①2022 年度新入生数の増加	80 人以上 A 65人以上 B 45人以上 C 未満 D	C 新入生64名 高卒不可と合格辞退が2名 在籍総数は93⇒107と増加した
	②OC参加数の増加 入学可能者 OC 参加実数	125 人以上 A 110 人以上 B 100 人以上 C 未満 D	D 全参加者数は 169 だが、うち入学可能者 87、前年度より-20 OC 費用効果率 60%→73%
	③退学者数の減少	2 人まで A 4 人まで B 6 人 まで C それ以上 D	B 年度途中3名年度末1名退学 従来よりも退学の防止ができています
(2)	適切な教育課程の編成と実施		
	①分かりやすいシラバスと授業展開	シラバスの改善が達成 A 8 割 B それ以下 C	B 今後、高校生 1 人にタブレット 1 台時代を迎え、ICT を適切に活用した授業展開が必要
	②形成的評価を評定に反映する	形成的評価が達成 A 8 割 B それ以下 C	B 科目によって達成度にばらつきがある
	③月例でテーマを決め、研修の時間を設ける 職員会議の時間を活用する	12 回実施(毎月) A 10 回以上 B 7回以上 C それ以下 D	A 12 回実施 これは校長主導 このままではいけないが、専門職を育てる教育の専門性と知見を向上させる刺激となった
(3)	信頼される学校づくり		
	①食育教室・保護者食事会の効果的な実施	参加者 32 名以上 A 28 名 以上 B 24 名以上 C 未満 D	全体として C 食育教室 2 組参加 D 保護者食事会の参加数はコロナ以前の半数とし実施 B 開催方式を変革する必要がある
	②保護者給食試食の実施 栄 9 回 専 6 回 調理 6 回 年間 21 回給食あり	参加者のべ数160 以上 A 130 以上 B 100 以上 C 未満 D	D 周知がむずかしかった 定着するように連続する
	③SNS 等 ICT 関連の情報発信に力を入れる 各メディアに分担を細分化 更新頻度の安定 適切な間隔	教職員の自己評価を 4 点 満点でとる 平均点が3. 6以上 A 平均点が3. 2 以上 B 平均点が2. 5以上 C 未満 D	B 職員自己評価平均3.23 ブログの発信が頻繁、インスタも多く YouTube もがんばった 天野教員の炒飯動画再生回数は3.4万回 海外からの視聴が多数

## 2 2022 年度 事業計画と評価計画

事業計画 重点課題	主な取組事項
(1) 学生確保 充足率の向上	①募集戦略の見直し ②オープンキャンパスの質的向上 ③中長期的な宣伝活動 ④教育相談や就職指導の充実
(2) 適切な教育課程の編成と実施および検証	①魅力ある教育課程の編成と実施 ②常勤職員の OJT ③非常勤講師の適切な活用 ④見通しをもった諸会議運営
(3) 信頼される学校づくり	①地域への貢献 ②情報発信 ③職員研修、OJT の充実 ④学校関係者評価委員会 ⑤教員面談と適切なメンタルヘルスライ ンケア

(2021.12 次年度事業計画実践事項より転載)

### 評価項目と評価基準

	評価項目	評価基準
(1)	学生確保充足率の向上……募集要項リニューアルが奏功すること	
	①2022 年度新入生数の増加	70 人以上 A 65 人以上 B 45 人以上 C 未満 D
	②OC 参加数の増加 入学可能者 OC 参加実数	110 人以上 A 100 人以上 B 90 人以上 C 未満 D
	③退学者数の減少	2 人まで A 4 人まで B 6 人まで C それ以上 D
(2)	適切な教育課程の編成と実施……効力感のある授業実践と指導力向上	
	①常勤教員の指導力向上	教員の自己評価 4 点満点で評価 平均 3.0 以上 A 2.8 以上 B 2.5 以上 C 未満 D
	②学生による授業満足度向上	学生の評価 4 点満点で評価 (全体として) 平均 3.0 以上 A 2.8 以上 B 2.5 以上 C 未満 D
(3)	信頼される学校づくり……保護者、来校者からの評価向上と情報発信の充実	
	①保護者給食試食会、食事会 の参加者評価向上	参加者の評価 4 点満点で評価 平均 3.6 以上 A 3.2 以上 B 2.5 以上 C 未満 D
	②悠和祭来校者の評価向上	来校者の評価 4 点満点で評価 平均 3.6 以上 A 3.2 以上 B 2.5 以上 C 未満 D
	③多様なツールを活用した情 報発信	教職員の自己評価を 4 点満点でとる 平均 3.6 以上 A 3.2 以上 B 2.5 以上 C 未満 D

注：肯定的数値がよいことのみで成果があるとは断定できないが、目標として設定した

番外 ○資金収支、事業収支の改善 ○教職員のワークライフバランス、退職防止

# 令和4年度第1回学校関係者評価委員会記録

2022.5.25 記

## 1 日時 場所 出席者等

2022.5.23 (月) 14:00~15:30 悠久山栄養調理専門学校 104 教室

出席者 松田トミ子さん 小村 隆司さん 野元真善さん

学校側 井上 武田 加藤 川上 松川

## 2 資料等

○全体について 前出の資料

○栄養士科、調理師科 それぞれの昨年度ふりかえり 今年度の課題 口頭

○教務と広報 事務部 それぞれの昨年度ふりかえり 今年度の課題 口頭

・実習記録の形式を改善したところ、実習に向かう学生の意識の変化がみられる。

「料理について学ぶ」姿勢が向上している。

・担任がクラスごとに行っていた就職活動支援をシステム化し、全校体制で試みた。

学生にとって印象に残るものとした。

・自分の担当する授業実践をプレゼン、協議をしてよい科内研修ができた。

・分掌委員会や運営委員会、職員会議における検討が不十分になってしまう議題がある。

年間を通して、全体を俯瞰して準備→検討→実施→評価→改善→次年度へ というサイクルがスムーズに成立するようにせねばならない。

## 3 委員のみなさんからのご意見

○目標と評価基準について

可能なものはできるだけ数値化をする 同時に数値の影に隠れているものを見取り分析することが必要である。

また、このような年度の評価とそれを受けた次年度の目標や評価基準について、何よりも教職員が深く理解することが大切である。

○様々な取組について

教職員や委員のためではなく、何よりも学生のためになることが肝要である。

○同窓会の活用について

本校には5000人を超える同窓生がおり、各地で顕著な活躍をしている人も多い。OBによる実習授業は、学生に食の現場の生の声が届けることができる。同窓会の活用を考えていかねばならない。